

令和4年度もご協力 ありがとうございました



志 寛 鍊

第3号

2023. 3. 24

第77代

伊敷中生徒会

令和四年度を振り返って

三月に入り、春の訪れを感じる季節となりました。三月十四日に第七十六回卒業式が挙行され、これまで最高学年として伊敷中を引っ張ってくださった三年生二百三十六名が、この学び舎を巣立っていきました。

さて、令和四年度ももうすぐ終わろうとしている今、皆さんの一番に残っていることは何でしょうか。体育大会や文化祭などの学校行事を通して、たくさんの思い出ができたのではないのでしょうか。一年生は、四月にこの



伊敷中学校に入学してきました。最初の頃は決まりやルールを理解し、実行していくことに精一杯でしたが、今では来年度入学してくる新入生の手本とな

れるよう当たり前のことを当たり前にできるようにになりました。二年生は今年度先輩となり、学校生活や生徒会活動、さらには部活動でも中心となって引っ張っていき存在となりました。また、修学旅行や職場体験学習など貴重な体験をすることができ、楽しくも学び多い一年になったのではないのでしょうか。先日卒業された三年生は最高学年としてすべての面で伊敷中学校を引っ張ってくれました。残された私たち一・二年生は先輩方から引き継いだ伝統をより良いものにしていくために頑張っていかなければなりません。四月から始まる令和五年度も、伊敷中学校らしく前向きな気持ちでたくさんの方にチャレンジしていきたいですね。令和四年度も生徒会活動へのご協力、ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお祈りいたします。

（池水 晴香）

トルコ義援金へのご協力の御礼

三月八日～十日に行ったトルコ義援金へのたくさんのご協力、ありがとうございます。皆さんは日本とトルコの深い関係について知っていましたか。私は日本人が多くトルコ国民を救った歴史があることや、その恩を忘れなかったトルコによって多くの日本人が救われていた歴史があることを知りませんでした。今回、私たち生徒会が義援金を募ろうと思ったのは、長い時間をかけて築かれた両国の関係を知った自分たちに何かできることがないかと考えたからです。先月行われた立志式で講話に来てくださったぼんちゃんこと岩元美沙さんから、トルコには支援物資はあるもの、それを運ぶためのお金がない、ということをお聞きしました。被災地であるトルコで生活する人たちに、救援物資を届けるために、今回その義援金を募ることにしました。募金活動にたくさん伊敷中生が協力してくれました。今回集まった義援金は21929円でした。



〈募金活動の様子〉

この義援金は、先日の放課後に生徒会役員がトルコ大使館に連絡し、トルコに送られることになりました。義援金へのご協力、本当にありがとうございました。トルコの早い復興を、心からお祈りしています。

（谷口 蓮）

生徒会の窓

卒業式も終わり、温かい季節が近づいてきました。二年生は「受験生」となり、そして、最高学年になります。一年生は、新しく入学してくる新入生の手本となり、また、中堅学年として活動する時期がやってきます。

さて、思い返せばこの一年たくさんの出来事がありました。体育大会や文化祭などの学校行事に加え、友達や先生と過ごした日々、嬉しかったこと、楽しかったこと、時には悲しいことや辛いことなど様々なことがあったことでしょうか。みなさんの心にはどんな思い出がよみがえってきますか。今のクラスで良かった、そう思える毎日だったでしょうか。目標もつて何かに全力で取り組めた一年だったでしょうか。あと二週間もすれば新しい学期が始まります。入学してくる新入生の先輩として、今よりもっと「Step Up」出来るよう、一人一人が意識を高めて行動していきましょう。

（上玉利 歌音）

立志式

2月17日に立志式が行われました。立志とは、志（将来の夢や目標）を立て、それを成し遂げようとする決心のことです。もともとは、江戸時代の成人である数え年での十五の十四歳で「元服」という儀式を行ったことに由来します。この立志式を機に、それぞれが目標を立てたことと思います。立てた目標を達成するために今、自分に何ができると考え、努力していきましよう。

また、走る冒険家であるポンちゃんこと岩元美沙さ



んからたくさんのお話を伺いました。皆さんの一番印象に残った言葉は何でしたか。私は、「なりたいた職業よりもなりたいた自分をイメージするのが大切」という言葉が心に残っています。なりたいた職業が決まっている人も、具体的には決まっていなくても、まずは「なりたいた自分」を想像してみるといいかもしれません。私は、保育士になりたい、という目標をもっていましたが、今回ぽんちゃんの話聞いて「常に他人の気持ちに寄り添える保育士」になりましたという具体的な目標をもつことができました。この目標を達成するために、日頃から相手の気持ちを考えて行動し、相手が何を求めているのか、何をしたら嬉しい気持ちになるのか想像していききたいと思っています。

また、一人一人の心に寄り添った言葉を心掛けていきます。立志式を迎

河瀬雅之校長先生にインタビュー

今回が、今年度最後の翌檜新聞となりました。令和四年度最終号では、これまで長い教員人生を送られてこられ、この春ご退職される河瀬校長先生に、インタビューをしてみました。



【修学旅行でバス内を盛り上げる校長先生】

Q 伊敷中の良いところはどこですか。

A 生徒会活動が盛んであり、三大伝統が長く続いているところです。

Q 今までを振り返って、特に印象に残っていることは何ですか。

A コロナ禍に始まったリモート授業です。工夫してできる行事は諦めず、しかし状況に応じてやめる時はやめる、そのような生徒の安全、安心に関わることの判断をすることが初めてでした。

Q 今後どのようなことをしていきたいか。

A まだ決まっていなくても、人の相談に乗れるような仕事をしたいと考えています。

Q 校長先生が考える人生における大切なことは何ですか。

A 自分のことは自分で決めることです。上手いかなんかがあったとしても、人のせいにしてはいけません。なぜなら、自分で決めたことだものね。

えた二年生の皆さん、志を高くもち、夢や目標に向かって頑張ってください。また、一年生の皆さんも、なりたいた自分を想像し、なりたいた自分になるためにこれから頑張ってくださいませう。

(西村 小春)

クラスマッチ

先日、各学年でクラスマッチが行われました。皆さんにとって、充実した最高の思い出になりましたか。

(樋口 聡馬)

河瀬校長先生、これまで伊敷中学生のために、ありがとうございました。ご退職されても、お体に気を付けて元気にお過ごしください。そして、これからも僕たち伊敷中学生を見守ってくださいと嬉しいです。またどこかでお会いできる日を生徒一同楽しみにしています。

楽しいクラスマッチになったのではないのでしょうか。ルールをしっかり守りながら、その中で楽しむことは、普段の学校生活でも大切なことです。クラスマッチ前の各学級における練習では、どうすればチーム一丸となつて取り組めるか、どうすれば勝つことができかなど、メンバーで話し合い、作戦を立て、準備をしたところもあるでしょう。課題点を見つけ、どうすれば改善できるか考える力が培われたのではないのでしょうか。今のクラスで行う最後の学校行事でしたが、どの学年も盛り上がったクラスマッチとなり、体育部としても大変嬉しかったです。また、各学級の体育班長、副班長、そして班員の皆さん、準備から運営までお疲れ様でした。来年度のクラスマッチも各学級、各学年が楽しんでクラスマッチになつたのではないのでしょうか。



ツチも各学級、各学年が丸となつて頑張ってくださいませう。

【クラスマッチ結果】
 一年総合優勝 五組
 二年総合優勝 一組
 三年総合優勝 二組
 (若松 怜玖)

編集後記

三月号の翌檜新聞もお楽しみいただけましたか。三月はトルコ地震への義援金活動に取り組みました。トルコ地震で被災地に住む方々のために、自分たちに何かできることはないだろうかと考えた結果、今回この活動を行うことが決定しました。たくさんのご協力、本当にありがとうございました。

また、各学級の体育班長、副班長、そして班員の皆さん、準備から運営までお疲れ様でした。来年度のクラスマッチも各学級、各学年が丸となつて頑張ってくださいませう。四月からはまた新しい年度が始まります。新しい学級で新しいメンバーと新たな一年がスタートします。体調管理に気を付けて、元気いっぱい頑張ってくださいませう。令和五年度の翌檜新聞もぜひ、お楽しみに。

(江平 蓮)